

疾患修飾薬による治療を見据えた嗅覚機能スクリーニング

浦上 克哉

鳥取大学医学部保健学科認知症予防学講座

認知症をきたす代表疾患であるアルツハイマー型認知症（AD）では記憶障害が出現するより前に嗅覚障害が出現する。病理学的にも嗅神経に早期から原因蛋白とされるアミロイド β 蛋白の蓄積が報告されている。早期に、この嗅覚障害を発見できればプレクリニカル AD を発見できる可能性が考えられる。しかし、人間は嗅覚機能が著しく退化した動物であり、自身の嗅覚障害を自覚することはとても難しい。そこで、嗅覚機能の異常を早期に発見するためのスクリーニング検査が期待される。これまでも嗅覚機能検査キットは販売されているが、元々認知症の早期発見を目指したものではないため、認知症の早期発見への精度は十分ではなかった。そこで、認知症の早期発見に役立つ嗅覚機能スクリーニング検査の開発を試み、短時間で負担なく施行でき、有効性が期待できる嗅覚スクリーニングキットの製品化に成功した。長年、軽度認知症障害（MCI）を早期発見し予防しようという取り組みを行っているが、もの忘れ検診の段階で施行している認知機能検査への抵抗感が強い方が少なくない。嗅覚検査を併用したものの忘れ検診を行った結果、認知機能検査より嗅覚機能検査の方が抵抗感が少ないというアンケート調査結果も得られている。現在、本邦でも疾患修飾薬の認可が視野に入ってきているが、主たる投与対象は MCI から Preclinical AD と考えられる。そこで嗅覚機能スクリーニング検査を行い MCI や Preclinical AD が疑われたらアミロイド PET や髄液中アミロイド β 蛋白の測定につなげていくというストラテジーが考えられる。脳内へのアミロイド沈着が確認できれば疾患修飾薬の投与対象となる。